

# 芸術

## (音楽Ⅰ)

発 行 者	教科書の記号・番号	判型	ページ数	検定済年	
番 号	名 称 略 称				
27	教育芸術社 教芸	音Ⅰ 027-901	A 4	158	令和7年
27	教育芸術社 教芸	音Ⅰ 027-902	A 4	158	令和7年
50	大修館書店 大修館	音Ⅰ 050-901	A 4	166	令和7年
89	音楽之友社 友社	音Ⅰ 089-901	A 4 変型	166	令和7年

※「教科書の記号・番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

## 1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者及び教科書の番号

音楽 I		冊数	4冊
発行者の略称・教科書の番号	教芸027-901 教芸027-902 大修館050-901 友社089-901		

## 2 学習指導要領における教科・科目の目標等

### 【芸術の目標】

芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
- (2) 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
- (3) 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

### 【音楽 I の目標】

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

### 【音楽 I の内容及び内容の取扱い】

「内容」の概要	「内容の取扱い」抜粋
<p>A 表現</p> <p>(1) 歌唱</p> <p>ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫すること。</p> <p>イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。</p> <p>(ア) 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり</p> <p>(イ) 言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり</p> <p>(ウ) 様々な表現形態による歌唱表現の特徴</p> <p>ウ 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能</p> <p>(イ) 他者との調和を意識して歌う技能</p> <p>(ウ) 表現形態の特徴を生かして歌う技能</p> <p>(2) 器楽</p> <p>ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫すること。</p>	<p>(1) 内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導については、中学校音楽科との関連を十分に考慮し、それぞれ特定の活動のみに偏らないようにするとともに、必要に応じて、[共通事項]を要として各領域や分野の関連を図るものとする。</p> <p>(2) 内容の「A表現」の(1)、(2)及び(3)の指導については、ア、イ及びウの各事項を、「B鑑賞」の(1)の指導については、ア及びイの各事項を適切に関連させて指導する。</p> <p>(3) 生徒の特性等を考慮し、内容の「A表現」の(3)のウについては(ア)、(イ)又は(ウ)のうち一つ以上を選択して扱うことができる。</p> <p>(4) 内容の[共通事項]は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力であり、「A表現」及び「B鑑賞」の指導と併せて、十分な指導が行われるよう工夫する。</p> <p>(5) 内容の「A表現」の指導に当たっては、生徒の特性等を考慮し、視唱と視奏及び読譜と記譜の指導を含めるものとする。</p> <p>(6) 内容の「A表現」の指導に当たっては、我が国の伝統的な歌唱及び和楽器を含めて扱うようにする。その際、内容の「B鑑賞」の(1)のア及びイの(イ)又は(ウ)との関連を図るよう配慮するものとする。</p>

「内容」の概要	「内容の取扱い」抜粋
<p>イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。</p> <p>(ア) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり</p> <p>(イ) 曲想と楽器の音色や奏法との関わり</p> <p>(ウ) 様々な表現形態による器楽表現の特徴</p> <p>ウ 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能</p> <p>(イ) 他者との調和を意識して演奏する技能</p> <p>(ウ) 表現形態の特徴を生かして演奏する技能</p> <p>(3) 創作</p> <p>ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫すること。</p> <p>イ 音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解すること。</p> <p>ウ 創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能</p> <p>(イ) 旋律をつくったり、つくった旋律に副次的な旋律や和音などを付けた音楽をつくったりする技能</p> <p>(ウ) 音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、変奏や編曲をする技能</p> <p>B 鑑賞</p> <p>(1) 鑑賞</p> <p>ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くこと。</p> <p>(ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠</p> <p>(イ) 自分や社会にとっての音楽の意味や価値</p> <p>(ウ) 音楽表現の共通性や固有性</p> <p>イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。</p> <p>(ア) 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり</p> <p>(イ) 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり</p> <p>(ウ) 我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴</p> <p>[共通事項]</p> <p>ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。</p>	<p>(7) 内容の「A表現」の(3)の指導に当たっては、即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成することを重視するとともに、作品を記録する方法を工夫させるものとする。</p> <p>(8) 内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、思考力、判断力、表現力等の育成を図るため、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、芸術科音楽の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるよう指導を工夫する。なお、内容の「B鑑賞」の指導に当たっては、曲や演奏について根拠をもって批評する活動などを取り入れるようにする。</p> <p>(9) 内容の「A表現」及び「B鑑賞」の教材については、学校や地域の実態等を考慮し、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽から幅広く扱うようにする。また、「B鑑賞」の教材については、アジア地域の諸民族の音楽を含めて扱うようにする。</p> <p>(10) 音楽活動を通して、それぞれの教材等に応じ、生徒が音や音楽と生活や社会との関わりを実感できるよう指導を工夫する。なお、適宜、自然音や環境音などについても取り扱い、音環境への関心を高めることができるよう指導を工夫する。</p> <p>(11) 自己や他者の著作物及びそれらの著作者の創造性を尊重する態度の形成を図るとともに、必要に応じて、音楽に関する知的財産権について触れるようにする。また、こうした態度の形成が、音楽文化の継承、発展、創造を支えていることへの理解につながるよう配慮する。</p>

「内容」の概要	「内容の取扱い」抜粋
イ 音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。	

### 3 教科書の調査研究

#### (1) 内容

##### ア 調査研究の総括表

調査項目	対象の根拠（目標等との関連）
a 題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	学習指導要領第2章第7節第3款1
b 音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、芸術科音楽の特質に応じた言語活動を適切に位置付けている内容	学習指導要領第2章第7節第2款第1、3(8)
その他の項目（各教科共通）	学習指導要領総則、東京都教育委員会の基本方針、東京都教育ビジョン

#### イ 調査項目の具体的な内容

##### ① 調査項目の具体的な内容の対象とした事項

調査研究事項の a、b 及びその他の項目との関連で、次の事項について具体的に調査研究する。

- a 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通)
  - ・ 音楽的な見方・考え方を働かせた学習活動によって、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力の育成を図っている内容について調査する。
- b 音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、芸術科音楽の特質に応じた言語活動を適切に位置付けている内容
  - ・ 「A表現」及び「B鑑賞」において、思考力、判断力、表現力等の育成を図るため、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、芸術科音楽の特質に応じた言語活動を適切に位置付けている内容について調査する。
  - ・ 「B鑑賞」において、曲や演奏について根拠をもって批評する活動について調査する。

《その他の項目》（各教科共通）

- ・ 我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫
- ・ 人権課題（同和問題、北朝鮮による拉致問題等）に関する特徴や工夫
- ・ 安全・防災や自然災害の扱い
- ・ オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫
- ・ 固定的な性別役割分担意識に関する記述等

##### ② 調査対象事項を設定した理由等

- a 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通)
  - ・ 学習指導要領の中に、「題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。」と明示されている。そのため、各題材における資質・能力をどのように育成できるかという視点で調査することとした。
- b 音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、芸術科音楽の特質に応じた言語活動を適切に位置付けている内容
  - ・ 学習指導要領に、言語活動の充実の目的が明確に示されているとともに、言語活動が「A表現」及び「B鑑賞」の両領域において大切であることが示されている。このことから、芸術科音楽の特質に応じた言語活動を適切に位置付けている内容について調査することとした。

《その他の項目》（各教科共通）

- ・ 我が国の領域をめぐる問題及び国旗・国歌の取り扱いについては、学習指導要領総則に基づき、これらの問題を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。
- ・ 北朝鮮による拉致問題については、東京都教育委員会の基本方針1に基づき、人権尊重の理念

を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。

- ・ 東京都では、自然災害時における被害を最小化し、首都機能の迅速な復旧を図る総合的なリスクマネジメント方策の確立が喫緊の課題であり、防災教育の普及等により地域の防災力の向上が重要であることから、防災や自然災害の扱いについて調査する。
- ・ 東京都教育委員会の基本方針 2・3 に基づき、文化・スポーツに親しみ、国際社会に貢献できる日本人を育成するという観点から、オリンピック・パラリンピックの扱いについて調査する。
- ・ 東京都教育委員会の基本方針 1 及び東京都の男女平等参画推進の施策を踏まえ、固定的な性別役割分担意識の解消や、「無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)」に気付いて言動等を見直していくなど、男女の平等を重んずる態度を養うことができるよう、その扱いについて調査する。

## (2) 構成上の工夫(各教科共通)

- ・ デジタルコンテンツの扱い
- ・ ユニバーサルデザインの視点

教科名	芸術
科目名	音楽 I

発行者（略称）	教芸
教科書番号	音 I 027-901
教科書名	MOUSA 1
(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【A表現 歌唱】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱の題材において、言葉のまとまりと旋律・リズムとの関わり、曲想と歌詞との関わり、フレーズの表現方法などの音楽を形づくっている要素と音楽における働きと関わらせて理解するとともに、歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創意工夫や表現上の効果を生かした歌唱表現をするために必要な技能を身に付けられるよう工夫されている。</li> <li>・日本語や外国語による歌曲の題材において、各言語特有の響きや語感、歌詞の内容、伴奏との関わりを生かしながら表現するなど、曲の表現内容や様々な表現形態による歌唱表現の固有性や多様性が理解できるよう工夫されている。</li> </ul>
【A表現 器楽】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウクレレやギター、リコーダー、和楽器の独奏及び鍵盤楽器アンサンブルの題材において、曲想に応じたリズムや奏法で演奏するなど、曲想と楽器の音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果を理解することができるよう工夫されている。また、スモールステップで学べるよう工夫されている。</li> <li>・器楽アンサンブルの題材において、メロディー、ハーモニー、ベースラインなど、パートの役割を理解し効果的なアンサンブルを考えるなど、創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付けることができるよう工夫されている。</li> </ul>
【A表現 創作】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変奏による創作の題材において、リズム、拍子などを変化させることにより曲の雰囲気やどのように変化したのかを感じ取らせるなど、創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、変奏や編曲をする技能を身に付けることができるよう工夫されている。</li> <li>・順次進行をもとにした旋律創作の題材において、和音進行に基づいた旋律を付けた音楽をつくり、試行錯誤しながら作品を仕上げるよう促すなど、音階や音型等の特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解を深めることができるよう工夫されている。</li> </ul>
【B鑑賞】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台芸術の題材において、時代背景の描写や人物の心情や場面にあった雰囲気を高める音楽の効果を味わうなど、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、文化や芸術としての音楽の意味や価値について考えられるよう工夫されている。</li> <li>・鑑賞の題材において、楽曲に関連する演奏形態や作品の鑑賞についても要点として明示し、鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるよう工夫されている。</li> </ul>
【共通事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱や器楽の題材において、共通事項を意識した表現の工夫を促すなど、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えることができるよう工夫されている。</li> <li>・鑑賞の題材において、音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解することができるよう工夫されている。</li> </ul>
b 音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、芸術科音楽の特質に応じた言語活動を適切に位置付けている内容	
【言語活動について】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現や鑑賞分野の題材において、生徒の協働的な活動を促す課題提示や、自分の考えや意見、作品を発表したりグループで話し合ったりする場面が設定され、音楽や言葉によるコミュニケーションを図り、より学びが深まるよう工夫されている。</li> </ul>
《その他の項目》（各教科共通）	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の伝統音楽では、その特徴や背景や文化について説明資料があり、日本音楽の流れについては古代からの成立時期が、写真や年表を用いて理解しやすいように工夫されている。</li> <li>・世界の諸民族の音楽において、その背景にある文化に関して、「声」と「楽器」による表現の紹介や、世界の民謡による歌唱を取扱い、他国の音楽的特徴が理解できるように工夫されている。</li> </ul>
人権課題（同和問題、北朝鮮による拉致問題等）に関する特徴や工夫	記載なし
安全・防災や自然災害の扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本音楽の流れ」年表に「阪神・淡路大震災（1995）」「東日本大震災（2011）」が記載されている。</li> </ul>
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本音楽の流れ」年表に「東京オリンピック（1964）」「東京2020オリンピックパラリンピック」が記載されている。</li> </ul>
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	記載なし
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱におけるピアノ伴奏や原語歌詞の発音、模範演奏、解説などを視聴して各自が学習できるよう、ページ内に二次元コードが掲載されている。</li> </ul>
ユニバーサルデザインの視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザインフォントが使用されており、読みやすい文字や楽譜となるように配慮されている。また、全ての生徒の色覚特性に適應することを旨としてデザインされている。</li> </ul>

教科名	芸術
科目名	音楽 I

発行者（略称）	教芸
教科書番号	音 I 027-902
教科書名	高校生の音楽 1

(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【A表現 歌唱】	・歌唱の題材において、曲想と音楽の構造の関わり、様々な表現形態による歌唱表現の特徴についての理解を深めることにより、創意工夫や歌唱表現をするために必要な技能を身に付けられるよう工夫されている。また、掲載している楽曲数も豊富である。 ・日本語と外国語による歌曲の題材において、各言語の響きや語感などの特性、詩の内容、伴奏との関わりを生かしながら表現するなど、曲の様々な表現形態の特徴を生かして歌唱表現できるよう工夫されている。
【A表現 器楽】	・ソルフェージュの題材において、まとまりのある短い楽曲で、任意の楽器での演奏を行ったりさまざまな発音で歌ったりし、シンプルな和音による伴奏付けを促すことで、器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創意工夫や表現上の効果を生かした器楽表現をするために必要な技能を身に付けられるよう工夫されている。 ・ギターやリコーダー、和楽器の独奏及びアンサンブルの題材において、楽器の特性を生かしながら表現を工夫するなど、曲の表現内容や様々な表現形態の特徴を生かして演奏できるよう工夫されている。
【A表現 創作】	・オノマトペを素材にするなど声や楽器を使用して旋律を創作する題材において、リズムや言葉を用いた基本的なパターンを例示するなど、創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、表したいイメージと関わらせて理解できるよう工夫されている。 ・ピアノ曲の創作の題材において、和音進行に基づいた旋律を付けた音楽をつくり、創作のヒントとなる作例が示され、反復、変化、対照を変化させることにより曲の雰囲気などがどのように変化したのかを感じ取らせるなど創意工夫を生かした創作表現をするために必要な技能を身に付けられるよう工夫されている。
【B鑑賞】	・オペラなどの劇作品の題材において、歴史的背景の描写や効果的に表現されている人物の心情や場面を味わうなど、自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考えられるよう工夫されている。 ・鑑賞の題材において、それぞれの楽曲に関連する演奏形態や作品の鑑賞についても明示し、鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるよう工夫されている。
【共通事項】	・歌唱や器楽など表現分野の題材において、「音楽って何だろう？」など、共通事項を意識した表現の工夫を促すなど、音楽を形づくっている要素や構成を考えることによって要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えることができるよう工夫されている。 ・鑑賞の題材において、「音楽って何だろう？」などの音楽を形づくっている要素や音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて全体の構成を理解できるよう工夫されている。
b 音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、芸術科音楽の特質に応じた言語活動を適切に位置付けている内容	
【言語活動について】	・表現や鑑賞分野の題材において、自分の考えや意見を発表したりグループで話し合ったりする場面が設定され、音楽や言葉によるコミュニケーションを図り、より学びが深まるよう工夫されている。
《その他の項目》（各教科共通）	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	・我が国の民俗芸能については祭りの伝承が、日本音楽の特徴については古代からの成立時期が、写真や年表を用いて理解しやすいように工夫されている。 ・他国の民謡作品が多く取り上げられており、音楽文化の伝承について比較しながら理解できるように工夫されている。世界のさまざまな音楽において、その背景にある文化について理解し、あらゆる場面での音楽表現の形や他国の音楽的特徴が理解できるように工夫されている。
人権課題（同和問題、北朝鮮による拉致問題等）に関する特徴や工夫	記載なし
安全・防災や自然災害の扱い	・音楽史年表に「阪神・淡路大震災（1995）」「東日本大震災（2011）」「新型コロナウイルス感染症の世界的流行（2019～）」が記載されている。
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	・音楽史年表に「東京オリンピック（1964）」「東京2020オリンピックパラリンピック」が記載されている。
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	・「日本各地の民俗芸能」P.111～112の紹介文に、「女性の踊り手と男性の太鼓方が～」など、記載されている。
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	・歌唱におけるピアノ伴奏や原語歌詞の発音、模範演奏、解説などを視聴して各自が学習できるよう、ページ内に二次元コードが掲載されている。
ユニバーサルデザインの視点	・ユニバーサルデザインフォントが使用されており、読みやすい文字や楽譜となるように配慮されている。また、全ての生徒の色覚特性に適應することを目指してデザインされている。

教科名	芸術
科目名	音楽 I

発行者（略称）	大修館
教科書番号	音 I 050 - 901
教科書名	音楽 I 改訂版 Tutti+

(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【A表現 歌唱】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱の題材において、言葉のまとまりと旋律との関わりや、曲の雰囲気や表情を生み出す音楽の要素について理解を深めるなど、歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫することができるよう工夫されている。また、地域・時代など幅広いジャンルの楽曲を豊富に掲載している。</li> <li>・各題材において、題材に付帯する形で随所に解説やコラムが掲載されており、音楽を形づくっている要素と音楽における働きと関わらせて理解するとともに、歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創意工夫や表現上の効果を生かした歌唱表現をするために必要な技能を身に付けられるよう工夫されている。</li> </ul>
【A表現 器楽】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器楽の題材において、独奏からアンサンブル、合奏まで様々な表現形態の選択が可能で、表現形態の特徴を生かして演奏する能力を育成することができるよう工夫されている。</li> <li>・和楽器の題材において、様々な奏法についての記述が写真などを用いて分かりやすく掲載され、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付けることができるよう工夫されれている。楽曲にあった奏法の工夫を促す場面もあり、知識や技能を得たり生かしたりしながら、個性豊かに器楽表現を創意工夫することができるよう工夫されている。</li> </ul>
【A表現 創作】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創作の題材においては、旋律をつくる、音楽を構成する、変奏や編曲を行うことに応じた学習活動があり、創意工夫や表現上の効果を生かした創作表現をするために必要な技能を身に付けられるよう工夫されている。</li> <li>・音楽を構成する題材ではテーブル・ミュージックが取り上げられており、身近な素材を用いたアンサンブルの創作を行う過程で、反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能を身に付けるとともに、創作活動をグループで行わせることで、表現形態などの特徴について、表したいイメージと関わらせて理解することができるよう工夫されている。コンピューターを活用した創作についても触れている。</li> </ul>
【B鑑賞】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞の題材において、それぞれの楽曲に関連する演奏形態や楽器の特徴などがコラムや解説で詳細に記載されるなど、鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴くことができるよう工夫されている。</li> <li>・日本音楽を鑑賞する題材において、物語と時代背景を把握し、登場人物の気持ちが語りや演奏でどのように表現されているかを考え、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解を深めることができるよう工夫されている。</li> </ul>
【共通事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱の題材において、譜例を用いて共通事項を意識した表現の工夫を促すなど、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えることができるよう工夫されている。</li> <li>・鑑賞の題材において、音楽を形づくっている要素に注目しながら鑑賞するなど、音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解することができるよう工夫されている。</li> </ul>
b 音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、芸術科音楽の特質に応じた言語活動を適切に位置付けている内容	
【言語活動について】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創作や鑑賞の題材において、生徒の協働的な活動を促す課題提示により、音楽や言葉によるコミュニケーションを図り、より学びが深まるよう工夫されている。</li> </ul>
《その他の項目》（各教科共通）	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の伝統音楽について、民俗芸能の伝承の中で使用される楽器の紹介とともに、写真を用いて理解しやすいように工夫されている。</li> <li>・世界の諸民族の音楽において、その背景にある文化について、さまざまな「声」の表現と「楽器」による表現の紹介により、他国の音楽的特徴が理解できるように工夫されている。</li> </ul>
人権課題（同和問題、北朝鮮による拉致問題等）に関する特徴や工夫	記載なし
安全・防災や自然災害の扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「音楽史と史実」の年表に「阪神・淡路大震災（1995）」「東日本大震災（2011）」が記載されている。</li> </ul>
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「音楽史と史実」の年表に「夏季オリンピックが東京で開かれる（1964）」「東京2020オリンピック（2021）」が記載されている。</li> </ul>
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	記載なし
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	各所に示された二次元コードにより、外国語の歌詞の発音や器楽における奏法の確認、ワークシートのダウンロード、楽器解説の閲覧が可能となっている。
ユニバーサルデザインの視点	カラーユニバーサルデザインになっており、全ての生徒が見やすいよう配慮されている

教科名	芸術
科目名	音楽 I

発行者（略称）	友社
教科書番号	音 I 089-901
教科書名	改訂版 ON！ 1

(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【A表現 歌唱】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱の題材において、親しみやすく平易なポピュラーソングを導入とし、定評ある芸術歌曲やミュージカル等の学習に進むことで、曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり及び音楽の多様性について理解し、生活や社会の中に根差した音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力の育成を図るよう工夫されている。</li> <li>・日本語や外国語による歌曲の題材において、各言語特有の響きや語感、歌詞の内容、伴奏との関わりを生かしながら表現するなど、曲の表現内容や様々な表現形態による歌唱表現の固有性や多様性が理解できるよう工夫されている。</li> </ul>
【A表現 器楽】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民謡やジャズ、ポピュラーミュージックなどの多様な器楽の題材において、楽器の特性を生かした表現を工夫するなど、器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、個性豊かに器楽表現を創意工夫することができるよう工夫されている。</li> <li>・楽器を問わず共通して《第九》の楽曲がウォーミングアップ等で扱われており、曲想と楽器の音色や奏法との関わりについて比較しながら学ぶことができ、様々な表現形態による器楽表現の特徴を身に付けるよう工夫されている。</li> </ul>
【A表現 創作】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5音音階をもとにしたメロディーを創作する題材では、音階や音型などの特徴について表したいイメージと関わらせて理解し、創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、個性豊かに創作表現を創意工夫することができるよう工夫されている。</li> <li>・身の回りの音・音楽について考えながら、体や身近な打楽器を活用し、五線譜やリズム以外の方法を使ってシアターピースや自分自身の音楽を創作する題材では、音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型等の特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解を深めることができるよう工夫されている。</li> </ul>
【B鑑賞】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本音楽を鑑賞する題材において、物語と時代背景を把握し、登場人物の気持ちが語りや演奏でどのように表現されているかなど、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解を深めることができるよう工夫されている。</li> <li>・鑑賞の題材において、“鑑賞の手びき”やコラム、ポイント等が示され、それぞれの楽曲に関連する演奏形態や形式についても明示し、鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴くことができるよう工夫されている。</li> </ul>
【共通事項】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現分野及び鑑賞分野の題材において、“ONGAKU[音楽]をはじめよう”で共通事項を意識した表現の工夫を促すなど、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えることができるよう工夫されている。</li> </ul>
b 音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、芸術科音楽の特質に応じた言語活動を適切に位置付けている内容	
【言語活動について】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱や鑑賞の題材において、自分の知識や考えを発表する場面が設けられているなど、音楽や言葉によるコミュニケーションを促し、より学びが深まるよう工夫されている。</li> </ul>
《その他の項目》（各教科共通）	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国および他国の伝統や文化では、民謡作品が多く取り上げられており、音楽文化の伝承について比較しながら理解できるように工夫されている。資料も大型の地図を採用した図で各地の文化の把握がしやすく、幅広い地域やジャンルの多種多様な解説や紹介により、他国の音楽的特徴が理解できるよう工夫されている。</li> </ul>
人権課題（同和問題、北朝鮮による拉致問題等）に関する特徴や工夫	記載なし
安全・防災や自然災害の扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「音楽史年表」に「東京オリンピック（1964）」「東京2020オリンピックパラリンピック」が記載されている</li> </ul>
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（写真資料P.5）【右上】長野オリンピック開会式での演奏に向けた練習の様子</li> <li>・「音楽史年表」に「東京オリンピック（1964）」「東京2020オリンピックパラリンピック」が記載されている。</li> </ul>
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	記載なし
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	外国語の発音や、器楽における運指等の奏法について確認できる映像資料や、鑑賞に用いることのできるスコアや用語解説といった資料等が用意されている。
ユニバーサルデザインの視点	記載なし